

# 中部山岳地

特240

9

フー... 案内巻第拾輯



社団法人 (ターリスト・ビューロー)



# 始

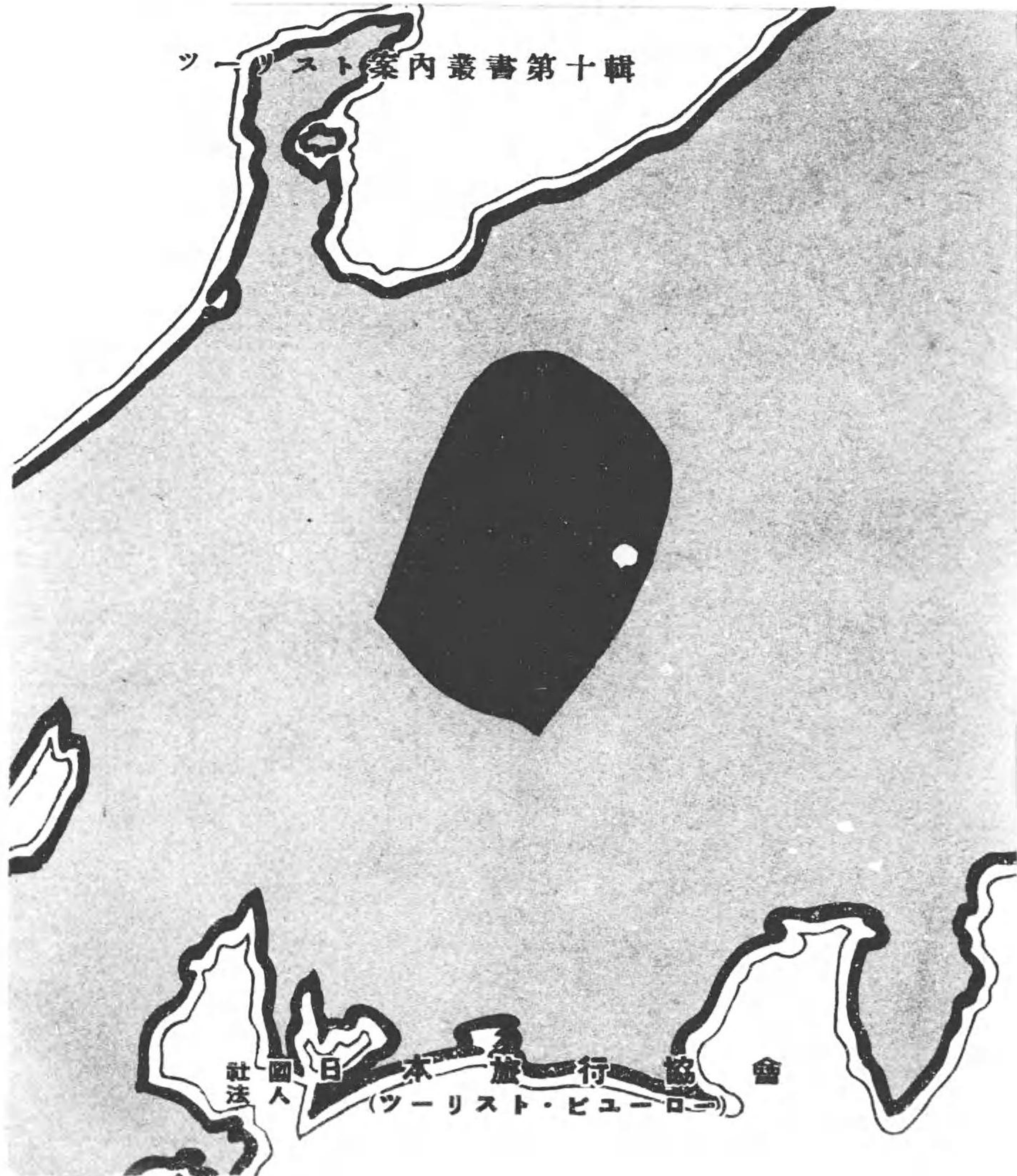


# 中部山岳地

特

9

ツ—リスト案内叢書第十輯



社団法人 日本旅行協会  
(ツ—リスト・ビューロー)

特240  
9

社団法人 日本旅行協會

法人 (ツ-リスト・ビユー-ロ-)

本 部 東京市麹町区丸の内一ノ一 (電話丸の内4141-6)

本部分室 東京市神田区鍛冶町二ノ二四 (電話神田3094)

支 部 東京、名古屋、大阪、廣島、門司、新潟、仙臺、

札幌、京城、臺北、奉天。

支 部 名 冊

東 京	東京驛前水口 (丸ノ内2022)	山 中	三井内 (2900)
東 京	東京驛前水口 (丸ノ内 802)	山 中	釜山驛桂橋橋内 (4011)
東 京	丸ビル一階内 (丸ノ内 646)	大 東	三井内 (3050)
東 京	市川ホテル内 (銀座5241)	大 東	三井内 (本局3111)
東 京	神田驛前 (神田1282.1233)	大 東	三井内 (本局1151)
東 京	日本橋三越内 (日本橋3617)	大 東	和信内 (光化門3800)
東 京	日本橋白木限内 (日本橋1331)	大 東	京城驛内 (本局4825)
東 京	日本橋高島屋内 (日本橋4111)	大 東	朝鮮ホテル内、丁子屋内 (3901)
東 京	銀座野村支案内所内 (京橋2821)	大 東	三井内 (570)
東 京	銀座松屋内 (京橋4644)	大 東	三井内 (175)
東 京	銀座六丁目二 (銀座879.1040)	大 東	三井内 (2440)
東 京	上野松坂屋内 (下谷3732)	大 東	三井内 (1245)
東 京	新宿伊勢丹内 (四谷6161)	大 東	三井内 (2440)
東 京	新宿三越内 (四谷6342)	大 東	三井内 (175)
東 京	海浜通一貫電協内 (本局3490)	大 東	三井内 (2440)
東 京	野澤屋内 (長省町4545)	大 東	三井内 (175)
東 京	官ノ下富士屋ホテル内 (2)	大 東	三井内 (175)
東 京	金谷ホテル内 (4001)	大 東	三井内 (175)
東 京	松屋内 (西局3550)	大 東	三井内 (175)
東 京	名古屋驛内 (本局2340)	大 東	三井内 (175)
東 京	廣小路朝日ビル内 (中局22)	大 東	三井内 (175)
東 京	松坂屋内 (3250)	大 東	三井内 (175)
東 京	丸物支店内 (5001)	大 東	三井内 (175)
東 京	だるま屋内 (4105)	大 東	三井内 (175)
東 京	官市大丸支店内 (下局8490)	大 東	三井内 (175)
東 京	京丸支店内 (本局2121)	大 東	三井内 (175)
東 京	都ホテル内、京都ホテル内 (本町1214.1315)	大 東	三井内 (175)
東 京	安土町二丁目博訪 (北瀬3540.5300)	大 東	三井内 (175)
東 京	三越内 (南131)	大 東	三井内 (175)
東 京	大丸内 (南331)	大 東	三井内 (175)
東 京	大丸合内 (本町1700)	大 東	三井内 (175)
東 京	東區安土町野村支案内所 (北瀬3003)	大 東	三井内 (175)
東 京	松坂屋内 (土佐堀6984)	大 東	三井内 (175)
東 京	新大丸ホテル内 (長合6330)	大 東	三井内 (175)
東 京	三ノ宮驛内 (三ノ宮2027)	大 東	三井内 (175)
東 京	新港一丁目新港相互館内 (788)	大 東	三井内 (175)
東 京	火丸内 (6831)	大 東	三井内 (175)
東 京	尾原呉服店内 (5800)	大 東	三井内 (175)
東 京	天満屋内 (1982)	大 東	三井内 (175)
東 京	下關驛前 (4491)	大 東	三井内 (175)
東 京	下三越内 (4541)	大 東	三井内 (175)
東 京	丸新百貨店内 (2113)	大 東	三井内 (175)
東 京	鮮満支案内所内 (2581)	大 東	三井内 (175)
東 京	井筒屋内 (東3031)	大 東	三井内 (175)
東 京	九州百貨店内 (西5250)	大 東	三井内 (175)
東 京	屋内内内内 (3271)	大 東	三井内 (175)
東 京	五松屋内内内内 (2770)	大 東	三井内 (175)
東 京	旭松屋内内内内 (3800)	大 東	三井内 (175)
東 京	米田本島崎保府島 (895)	大 東	三井内 (175)
東 京	久大熊長佐別福仙慶青新 (33)	大 東	三井内 (175)
東 京	久大熊長佐別福仙慶青新 (1585)	大 東	三井内 (175)
東 京	久大熊長佐別福仙慶青新 (4050)	大 東	三井内 (175)
東 京	久大熊長佐別福仙慶青新 (41)	大 東	三井内 (175)
東 京	久大熊長佐別福仙慶青新 (178.4300)	大 東	三井内 (175)
東 京	久大熊長佐別福仙慶青新 (1652)	大 東	三井内 (175)
東 京	久大熊長佐別福仙慶青新 (4300)	大 東	三井内 (175)
東 京	久大熊長佐別福仙慶青新 (2050)	大 東	三井内 (175)
東 京	久大熊長佐別福仙慶青新 (4300)	大 東	三井内 (175)
東 京	久大熊長佐別福仙慶青新 (4300)	大 東	三井内 (175)

例 言

一、本書は小やかな冊子ではあるが、旅する者の利便のために、只管忠實なる良き案内者たらんとする目的の下に生れたもので、力めて美辭麗句の羅列、文辭の修飾を避け精確を期したのである。

二、逐次地方々々を一纏として刊行の計畫であるが史蹟・名勝・觀光地・傳説・行事・名産・日程・費用概算等の記事は簡明を主として、一冊の携行はよく其地方の概念を把握し得ることと信ずる。

三、唯限られた紙数の小冊子に盛られた記事は時に簡に失する感もあり或は誤謬の點なきを保し難い。是等の諸點は大方の容かならざる御垂教を俟つて他日完璧を期したい。

四、本編は夏期登山計畫の一助ともならばと、北・中・南アルプス篇として編纂したものである。登山日程案及概念圖表中の徒歩所要時間、普通脚より稍緩速とし、且つ休憩時間も考慮して計算した。興味も比較的薄く、且つ餘りに一般的でないケースは之を省略した。

五、記事編中旅館名の上には印を附してあるのは日本旅行協會のタイポソ指定旅館で、カッポ内の宿泊料は當協會各地案内所にて發賣して居る旅館券(一泊二食付、茶代不要)の料金を示せるものであり、旅館・山小舎及自動車料金等は昭和十五年六月調べである。

昭和十五年六月

目 次

登山者の心得……………二頁

北アルプス……………四頁

中部山岳國立公園……………二頁

上高地、大正池、槍ヶ岳、穂高岳、燒岳、乗鞍岳、燕・常念・大天井嶽、白馬岳、安曇三湖、立山(三)……………三頁

北アルプス登山日程案……………三頁

白馬岳及其附近、常念登山口、有明登山口、大瀧登山口、島々登山口、乗鞍岳、双六谷入り、立山登山……………三頁

登山案内人料金其他……………三頁

北アルプス山小屋及旅館其他調……………三頁

南アルプス……………三頁

鳳凰山、甲斐駒ヶ岳、鋸岳、白峯三山、赤石岳、鹽見岳、仙丈岳……………三頁

南アルプス登山日程案……………三頁

南アルプス連峯登山案内人、山小屋……………三頁

其他調……………三頁

一、伊那谷方面 二、中央線方面其他……………三頁

中央アルプス……………三頁

木曾駒ヶ岳、同登山日程案、山小屋、登山案内人……………三頁

合、山小屋……………三頁

登山概念圖及登降所要時間……………三頁

概略圖表十六頁……………三頁

山岳寫眞四頁……………三頁

二五—六

## 山の注意

山は徒らに恐るべきでないが、しかし決して軽んじてはならない。一歩々々細心の注意を要する。

一、登山の歩調は「急進数休」は否「緩歩不休」を則とし、一歩々々確實に踏行すべきである。水は多く飲まざる事。雪は絶対に食すべからず。腹痛下痢を起すことがあるから。

一、山上は恰も小兒の喜怒の如く晴曇風雨の激變甚だしく、然も自然の威力が平地に比して頗る大である。雲霧咫尺を辨ぜざるも狼狽せざること。徒に動いて方向進路を誤るは失敗の基である。同伴者ある場合又は團體登山の場合は己れ獨り群を離れずリーダーの指導に従ふこと。

一、登山の遭難は多くの場合、山上の暴風雨・濃霧・峻岨な山稜・斷崖・雪崩の通過の場合などである。天候の悪い場合は進行を中止して舞れるのを待つこと。險阻なる箇所を通過するときは、よくその危険箇所を注意した上、ザイルを使ふとか又は各自が協力して進行をする事。又斷崖には往々岩石の崩壊があるから雁行して登ることはきけた方がよい。

一、一般に日本アルプス地方の山路は普通登山路の如く容易なるもの少く、地既に高山にして附近は人家なき深山幽谷を通過するのであるから只漫然と用意なしに行くことは慎むべきである。殊に難路にあつては距離

近き故を以て短時間に到達し得るものと速断するは失敗を招く因となる。

一、登山期間中鐵道の各主要驛には毎日山の天候が揭示されるから注視すること。

夏山登山に對しては汽車自動車等の連絡割引乗車券が發賣される。またコースによつては觀光券の發行も出来る所もある。

## 登山者の心得

### 〔登山の準備〕

一、出發せんとするときには、まづ目的の山やコースに對し、また必要な準備に就いて充分の知識を得なければならぬ。

一、登山は先づ自己の體力と健康とを考へ、適當な山を選ぶべきでその出發前、近くのハイキング・コースで足馴しをしておくことも必要である。また天候は充分研究し決して無理があつてはならぬ。

一、登山する山に對しては、豫め地圖や著書又はその方面の識者に就いて研究してから登山行程を定めることである。そして登山者の少ない、危険の多い山に對しては、出來得る限り熟練した案内人を備ふことを忘れてはならない。

一、登山行程は三日に一日の割合で雨天の場合に備へてほしい。山では無理な歩行と、いはゆる勇猛な登山は禁物である。殊に天候の惡兆を見たら登山を中止して快晴を待つべきである。

### 〔服装〕

服装は活動に便利な程快な洋服がよい。カラーは柔かなものを選び、雨覆あるポケットの多いもの程便利である。一度登山すれば甚だしく汚損するから布地は出来るだけ丈夫なもので防水性のものがよい。しかし、ゴム引はよくない、ズボンは半ズボンがよく、上着もズボンもボタンの履のあるものがよく、腹にボタンがあれば尚更都合がよい。巻グートルは靴とズボンの密着の箇所に巻けば具合がよく、日本在來の紺脚絆ヤストッキングも便利である。下着は濡れた場合早く乾かためシャツ、ズボン共薄いものがよく、なほ日中汗をかき着換えを注意するがよい。靴は編上紙打の底の厚い登山靴がよい。靴下は毛製のもので穿き替用を用意すべきである。靴を穿き慣れない人は草鞋がよい。草鞋のときは甲掛足袋の丈夫なものでないと指先を傷けることがある。草鞋は脚が軽くて實に歩きよいため、良い甲掛足袋と共に一日二足の割合で準備し、品質を選択すること、雨衣は防水の軽いレインコート類のもの又は着ゴザと油紙とを併用すればよい。油紙は他の品物を包むにも都合がよいから餘分に用意すること、着ゴザは日中除けとなり、又途中の休憩や雪崩等の際物にして重寶である。帽子は古いソフトの中折又は布製の柔かなもので折込み自在、且つ水切れのよいものを選び、槍笠の如きは風雨の場合不都合である。手袋は高い山では防寒用になるし、岩場や腰松帯では必ず必要であるから忘れてはならない。

### 〔携帶品〕

携帶品の選擇には十分の注意を要する。これはその目的とする山によつて異なるが、輕くて蒸張らないことを條件として選擇すべきである。携帶品人にはルックザック(背負袋)が最も便利である(防水してあるものがよい)。杖は金剛杖がよく、雪蓋又は岩登り等の場合には鋸口付杖アルペンストック等が役立つ。鐵標(アイゼン)(不完全なものは雪蓋踏破の場合足金や爪金が曲つたり離れたりすることがあるから丈夫なものを選ぶ様に注意すること)。地圖・時計・懐中電燈・水筒(魔法壺より水筒の方が便利である。水飲用コップも入用。手拭(山岳旅行等原始的の生活には極めて調子なものであるから餘分に携行すると便利である)。マッチ(常用又は燻マツチ)等、又山小屋のないところでは天幕・防雨用衣類・寝袋・炊

事具等が必要である。その他經具として呼子笛・磁石・望遠鏡・小刀・蠟燭・毛拔・鉛筆・手帳・集印帖・石鹼・齒磨具・用紙類・細引・藥品類・糸と針が必要である。雲漢及日光の強い時にかける茶色の眼鏡を携行するとよい。寫眞器を持参する人は山は意外に濕氣が多いからその注意を忘れぬやう。

▲防寒具としての手袋は冬向きの丈夫なものを選び、外に軍手も必要である。足袋は穿き替用を餘分にもつとよい。雨時又は朝夕は思の外寒いから冬シャツ・オーバー・セーター・腹巻・懷爐も用意するとよい。

▲地圖は陸地測量部發行の五萬分の一地圖が登山用として、日本北アルプス一帯は白馬岳・立山及黒部近傍國及槍ヶ岳・上高地・乗鞍岳近傍國の二葉になつて居り、南アルプス方面は白根山近傍國及赤石岳近傍國の二葉になつて居る。又毎年信濃教育會北安曇郡會で發行して居る(東京小林又七にて發賣、一枚六〇錢)日本北アルプス地方圖(五色刷十二萬五千分一)も良い地圖である。地圖はセルロイド製の圖囊に入れて使用すれば雨に遭つても濡れないでよい。

▲食料品は近年山小屋の設備完全になり特に米や味噌を持つて行く必要はない様になつた。豫備食料としてパン等携帶し、辨當は決して工夫に任しては成らぬ。其他間食用疲労回復用としてキャラメル・氷砂糖・チョコレート・ゴビー・レモンデー・乾燥ミルク・梅干・杏干等を用意してゆくことよい。普通話類は各山小屋でも販賣して居る。

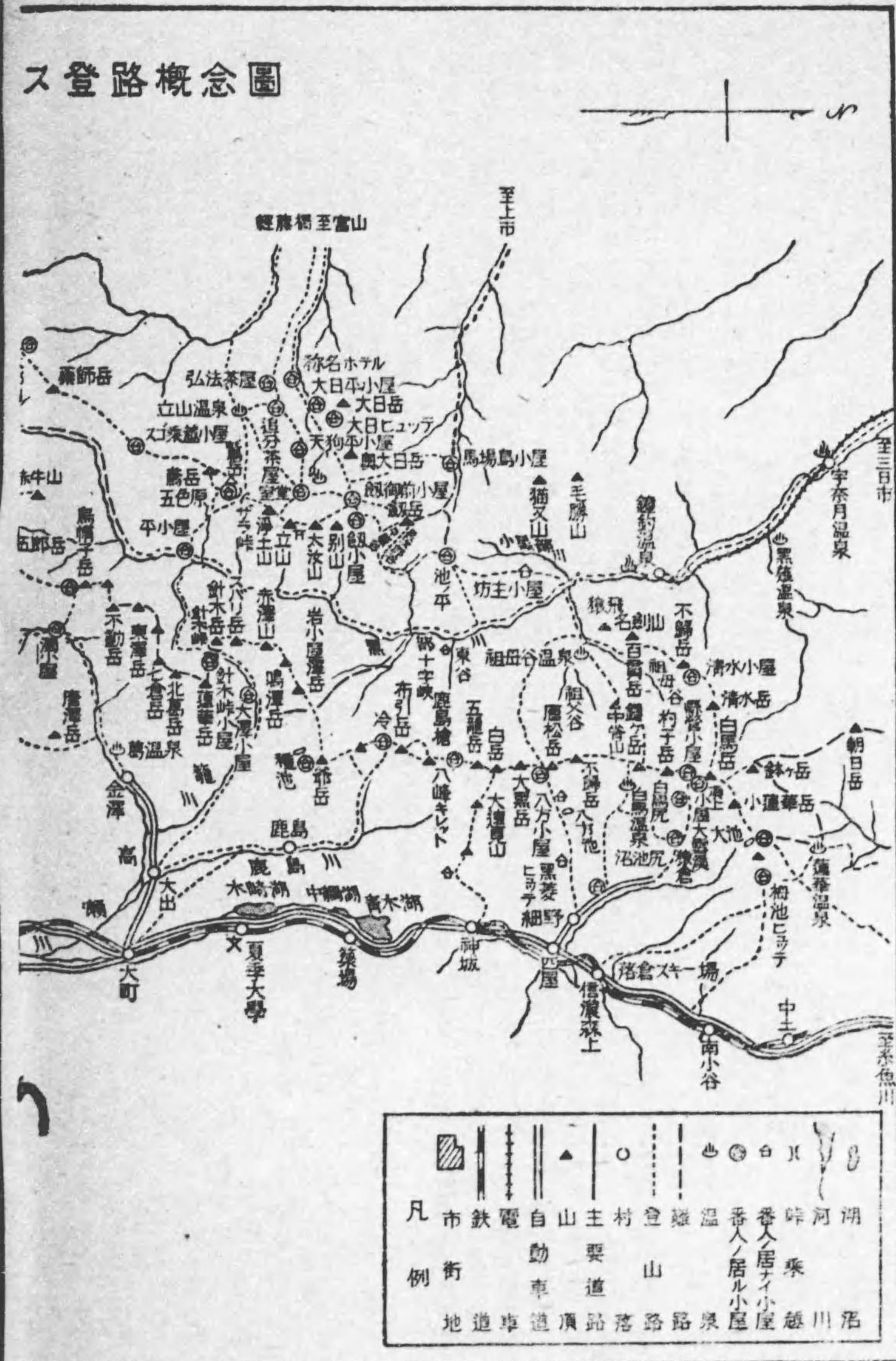
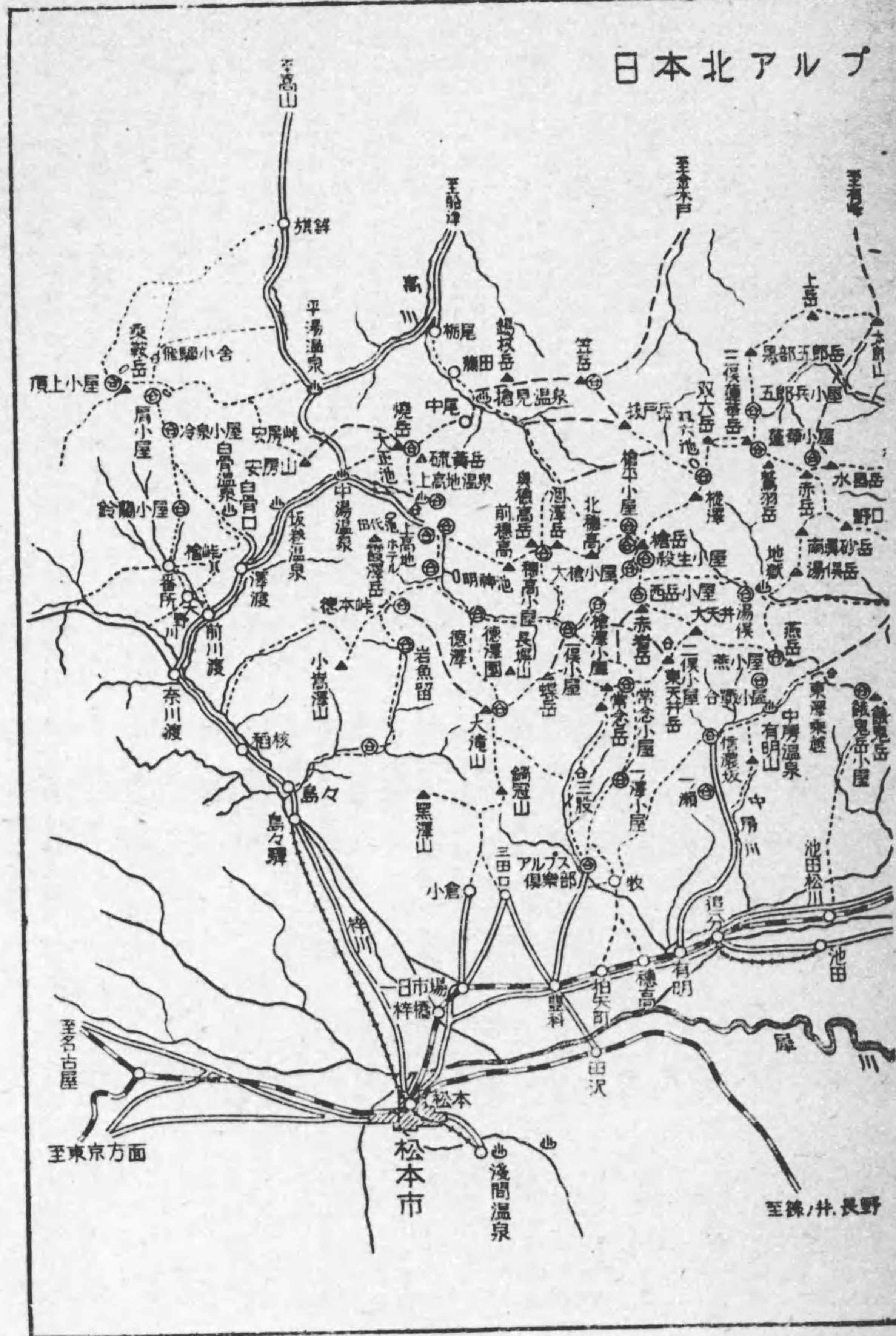
▲藥類は蚤取粉・仁丹・寶丹・ワセリン・脱脂綿・絆創膏・繻帶等が必要である。又興奮劑としてウイスキー或はブランデーの類を用意するは可なれど豫に飲用しないが宜しい。

### 〔登山案内人〕

雖場をかけるとき、或は途に少しも自信がない場合は是非案内人を備ふべきである。案内人を儲める場合は行程や費用を話し、料金を定めてから出發するがよい。尚人選や儲ひ方に付ては登山口の鐵道案内所、山岳會等に相談した方がよい。

〔註〕 大體に於て何れの組合でも案内人に對する食費、宿泊料、歸りの日當及旅費は儲主が持つこととなつて居る。尚信州口では電車、自動車の運賃及宿泊料を案内人に限り二割乃至三割引して居る向もある。





凡	市	鉄	電	自	山	主	村	登	難	温	香	香	呼	湖
例	街	道	車	道	頂	路	落	路	路	泉	屋	屋	越	川
	地	道	車	道	頂	路	落	路	路	泉	屋	屋	越	川

…明神池……上高地(旅館泊)  
 第三日 上高地 八時 往 徳本峠 一六時 往 鳥ヶ宿 一八時 往 鳥ヶ宿  
 往 松本驛(帰宅)

槍ヶ岳 嶽 (海拔三、七五米)

〔地 圖〕 五萬分一 松本・槍ヶ岳・槍ヶ岳

長野縣南安曇郡・岐阜縣吉城郡に跨り、中部山岳國立公園の略中央に屹立する第二の高峰で、日本の「マツタ」ホーンとして登山者の最も多いところである。信濃川・神通川の水源地をなし、石英斑岩から成る尖頂百米、恰も槍の穂先の如く直立、天空を衝いて他の群峰を壓し、北アルプス中の一休観をなしてゐる。南方に連る山稜は穂高諸峰を起して最高且つ最もアルプス的な連峰をなし、又その肩を四方に曳いてゐる。

上高地 一六時 往 一ノ俣小屋 一七時 往 殺生小屋 一八時 往 槍ヶ岳 槍ヶ岳の小屋 一〇〇分 頂上

槍ヶ岳登山は大抵殺生小屋か一ノ俣小屋に一泊し、そして上高地へ引返すか、大天井岳から飛騨へ縦走、中房温泉に出て一泊、大糸南嶺の有明峠に出るのである。この縦走はアルプス中最も一般的で容易、且つ興味あるところとして著名である。また南の大嶮岳から穂高連峰を縦走して上高地温泉へは一日行程でも出られる。一ノ俣小屋は北アルプス中最高所にある小屋で、こゝまで登ると、もう北アルプスの大嶮が際限なく廣がる。山頂は極めて狭く僅か三十人位で一杯になる程である。山頂からは北アルプス全體の峰々が一望指摘出来るばかり

りでなく、遠く淺間から八ヶ岳・南アルプス・富士・白山など中部の高山大嶮が一眸に入り展望は實に雄大である。

穂高 嶽 (海拔三、〇五米)

〔地 圖〕 五萬分一 松本・槍ヶ岳・槍ヶ岳

槍ヶ岳の南方にある一群の山峰の總稱、即ち信飛國境の山脈の一部で南北に連り、北端の北穂高嶽(三、二〇〇米)は大キレットを隔て、槍ヶ岳山群の南嶽に對し、その南には潤澤岳(三、〇〇〇米)、奥穂高嶽(三、〇五米)が聳え、以南は山稜二分して東南に前穂高嶽(三、〇五米)、西南に西穂高嶽(三、〇五米)を起し、西穂高から山稜急に低下して焼嶽方面に連つてゐる。之等群峰の東は梓川谷、南は上高地の盆地、西は蒲田谷によつて限られてゐる。奥穂高嶽は本邦第三の高峰で北アルプスの最高峰であるばかりではなく、群峰としても日本アルプス中之に比肩すべきものなく、また角閃閃岩及閃雲花崗岩から成る莊嚴な岩石美も他に比すべきものがない。實に我が國で最もアルプス的な標式的高山形を示す處で、大古に於ける氷河作用も亦潤澤岳直東の潤澤の園谷に見ることが出来る。

上高地 八時 往 前穂高嶽 一〇時 往 奥穂高嶽 一三時 往 穂高小屋

穂高小屋は奥穂高嶽と潤澤岳との鞍部にあり、登山中は八〇人位宿泊出来る。穂高・槍ヶ岳等の登山者に好む休息所である。登山者で山に馴れた人は一日で縦走出来るが、しつかりとした案内人を雇ふのが安全である。また崩壊性を帯びた岩石地帯もあるから同伴者と登る時には落石に注意することである。

奥穂高嶽頂上の大嶮は實に雄大である。南は脚下に上高地を俯瞰し、前穂高・西穂高は鋭い峰を連ねて兩翼の如く男性的な山骨を聳えさせ、焼嶽は近く噴煙を見せ、その他四圍に北アルプス連峰を一眸に集め、又遠く南アルプス連峰から遙かに富士山を望み、その眺望には際限がない。

燒嶽 (海拔三、四六米)

〔地 圖〕 五萬分一 松本・燒嶽

信飛の國境、上高地の西南に聳える鐘狀活火山で、頂上の火口中には更に數個の小火口があり、その南北側には馬蹄形爆裂火口、東側には略東西の二裂罅がある。明治四十年 爆發以來屢活動を繰返し、大正四年東方へ流下した泥流が梓川を堰止めて大正池を造り、上高地の景觀を一層美化せしめた事は世人の廣く知る處である。然しそのために金山禿山と化し、碎岩巨石累々として黒木立の枯れた残骸が多く、全くの燒山と化した。

イ) 上高地 往 燒嶽 一時間 燒嶽 口中の湯 上り 三時間 燒嶽

上高地から最も容易にアルプスの大嶮に接しようとする人、又は穂高や槍ヶ岳へ登る時間を持たぬ人は是非この燒嶽を選ばべきである。特に小屋あり休息出来る。

山頂からは上高地溪谷を脚下に、穂高岳から槍ヶ岳への連嶮、飛騨の笠ヶ岳から加賀の白山を臨み、南には乗鞍岳、御岳を仰いで展望は實に雄大である。

乗鞍 嶽 (海拔三、〇六米)

〔地 圖〕 五萬分一 松本・飛騨・燒嶽・乗鞍岳

北アルプス連峰の南端將に盡きんとする處、長野縣南安曇郡と、岐阜縣吉城・大野・益田の三郡とに跨る複雑な集合火山嶽で、南は御嶽と相呼應して、雄大な裾野を曳いてゐる。山頂は舊火口壁で火口壁の群峰が起伏し、劍ヶ峯(三、〇六米)、大岩岳(三、〇六米)、四ッ岳(三、〇六米)等の峯が略ぼ南北に並列して、これを高山方面から望めば山容馬背に似る處から此の名があると云ふ。山上には権現池を初め大小數個の山上湖があり、裾野はよく發達して桔梗ヶ原・番所ヶ原などがある。桔梗ヶ原附近は高山植物が多く、夏期はアルプス中屈指のお花畑と化し、また冬はその廣大なスロープは絶好のスキー場となり、北アルプス中立山附近と共に著名なところである。

登山は飛騨方面からと信州方面からの二途あり、信州側には白骨温泉・番所ヶ原、飛騨側には平湯温泉・平金嶽山・九藏・阿多野郷・野麥等の登山口がある。

鳥ヶ宿 一〇時 往 前川渡 一三時 往 大野川 一六時 往 鈴蘭小屋

六時 往 冷泉小屋 二時間 往 肩ノ小屋(泊) 二時間 往 頂上……冷泉小屋 三時間 往 白骨温泉(泊)

(高山線) 高山驛 三時 往 平湯峠 六時 往 乗鞍岳 山上に避難小屋があり宿泊出来る。そこから最高峯劍ヶ嶽迄約一時間で可行的。





面の結氷を見ることがない。湖畔は夏期避暑に適してゐる。旅館、和泉屋、湖端館がある。

**中綱湖** 築場驛から一〇〇米、海拔七五八米、面積三、四平方軒、水深一三米で冬はスケートによい。

**木崎湖** 最南に位し、信濃木崎驛から一軒(バス十錢)。海拔七三〇米、面積三、一平方軒、水深二九米、冬はスケート場となる。

湖畔に農林省水産講習所・木崎養魚試験所・信濃大學・仁科氏の城址及び學者村等があり、旅館に滄浪閣、達磨屋、近江屋(二圓半―五圓)等がある。

三湖は何れも魚類を産し(鯉・鱒・ウグヒ・ヨナ・アメ・鮎・鱒・鱒)、四邊の風致も幽邃で西方に鹿島槍一帯の鋭峰を仰ぎ見ることが出来る。

**立**

**山**

(海拔三〇二五米)

〔地 圖〕 五萬分一 五百石・黒部・立山・大町・富山 飛驒山脈の西北端、富山縣の東南隅に蟠居する海拔三千米を超える峻峯の大山嶽で、盟主雄山(海拔三〇〇米)を中心として北に大汝山(三〇二米)・別山(二八四米)・劔岳(三〇二米)・猫又山(三〇二米)・毛勝山・駒ヶ岳・僧ヶ岳が相連り、南には淨土山(三〇二米)・薬師岳(三〇二米)・黒部五郎岳等が屹立してゐる。この山嶽は黒部川の上流、常願寺川の上流、神通川の支流双谷と高瀬川の上流湯俣谷の一部によつて限られ、殊に黒部川の上流は山側を浸蝕して天下の奇勝たる黒部の上廊下・下廊下を形成してゐる。古來富士山・白山と共に

め、西北間近には劔岳の峻嶺が莊嚴にその鋭峰を現はしてゐる。西は富山平野開けてその中を常願寺川・神通川等が流れ、その注ぐ所に富山灣の波光や遠く能登半島が眺められる。又西南には白山の雄姿が聳え、東南には薬師岳・笠ヶ嶽から槍ヶ岳・穂高を初め北アルプスの重疊たる峯々を隔て、富士山・南アルプスの連嶺を遠く眺めることが出来るのである。

劔岳絶頂の眺望は立山と大差はないが、立山よりも日本海の眺望が格けて黒部谷や、黒部別山などの神祕境が眼下に窺はれる。

**北アルプス登山日程案**

左記日程及コースは最も多くの登山者が採る代表的コースを見本として掲げたものであるからこれを参考として各種のコースを按排し、各自の都合や體力で日程を組合せると面白いコースが出来ると思ふ。

費用概算は省線下車驛から歸りの乗車運送の交通及宿泊費用(案内料は不含)等を概算したものである。

は自動車

**白馬岳及びその附近**

案内人詰所 北安曇郡北城村四ツ谷

松本―信濃大町―信濃四ツ谷 電車及汽車にて二時(九軒)  
 信濃森 上 電車及汽車にて二時四十分(六軒)  
 四ツ谷―二俣 バス所要一五分(五軒)二〇錢

日本三名山の一に數へられ、信心の登山者が多い。北アルプスに最西北端に雄偉な山容を現はし、彌陀ヶ原・五色ヶ原等の熔岩臺地を作り、數ヶ所の爆裂火口壁を有し、温泉の涌出多く、高原・池沼に富み、氷雪・大カール・お花畑を展開する壯觀は日本アルプス中第一と云ふも過言ではない。殊にその偉容は、これを信州側の針ノ木岳又は後立山連峯から望んだ時に、その極に達すると云つてよい。

登山は劔岳を除いては比較的容易である。雄山の絶頂には有名な雄山神社(天手力権尊を祀る)があり、その東面下にはサル又のカールの壯觀がある。別山は内蔵ノ助のカールで有名な眞砂岳から一時間、冬季は積雪が多い。

劔岳は立山本峯の北にあり、岩峯の美と峻峻さに於ては總高岳に匹敵し、頂上から東へ続く八ツ峯の鋭い鋸齒状の險峻な山體は壯觀であり、その險峻さは登山家の苦心する處である。

立山の西南面室堂小屋附近からは火山性の雄大な彌陀ヶ原高原が十平方軒以上も開けてゐる。冬期は雪積量多く、十二月から五、六月頃までスキーに適し、我國最大のスキー地として知られてゐる。

登山路は大體北陸線の富山口と松本側の信濃大町からの二途がある(登陸経路略圖参照あり)。山上の展望は日本アルプス中多くその比を見る處で、峻嶺・高嶺は殆んど一眸の中に之を収めることが出来るのである。即ち東は眼下に深い黒部谷を俯瞰し、その對岸をなす針ノ木岳から鹿島槍・白馬へ續く後立山々脈の峯々を眺

**A案 白馬岳往復**

所要日數 二日 乗物宿泊料概算約四圓

第一日 信濃四ツ谷驛―二俣―猿倉―白馬尻小屋―大雪溪

―ネアカ平―白馬頂上小屋(泊) 第二日 往路を引返す

〔註〕最も容易な登山コースであるが白馬尻小屋から二軒餘の大雪溪があるからアイゼンを豫め用意し置くこと。御花畑は蕪平(大雪溪の上)から頂上附近にあり百花咲き亂れて實に美事である。

**B案 白馬・杓子・鐘** 所要日數 二日 乗物宿泊料概算約四圓

第一日 四ツ谷↓白馬頂上小屋(A案による)

第二日 白馬頂上小屋―杓子岳―白馬鐘ヶ岳―鐘温泉

二俣―信濃四ツ谷驛―松本

**C案 白馬・大池** 所要日數 二日 乗物宿泊料概算約四圓

第一日 四ツ谷↓白馬頂上小屋(泊) (前期A案による)

第二日 白馬頂上―大池小屋―天狗原―神ノ田圃―森上驛

―松本

**D案 白馬・黒部・宇奈月** 所要日數 三日 乗物宿泊料概算約三圓

第一日 四ツ谷↓白馬頂上小屋(泊) (前期A案による)

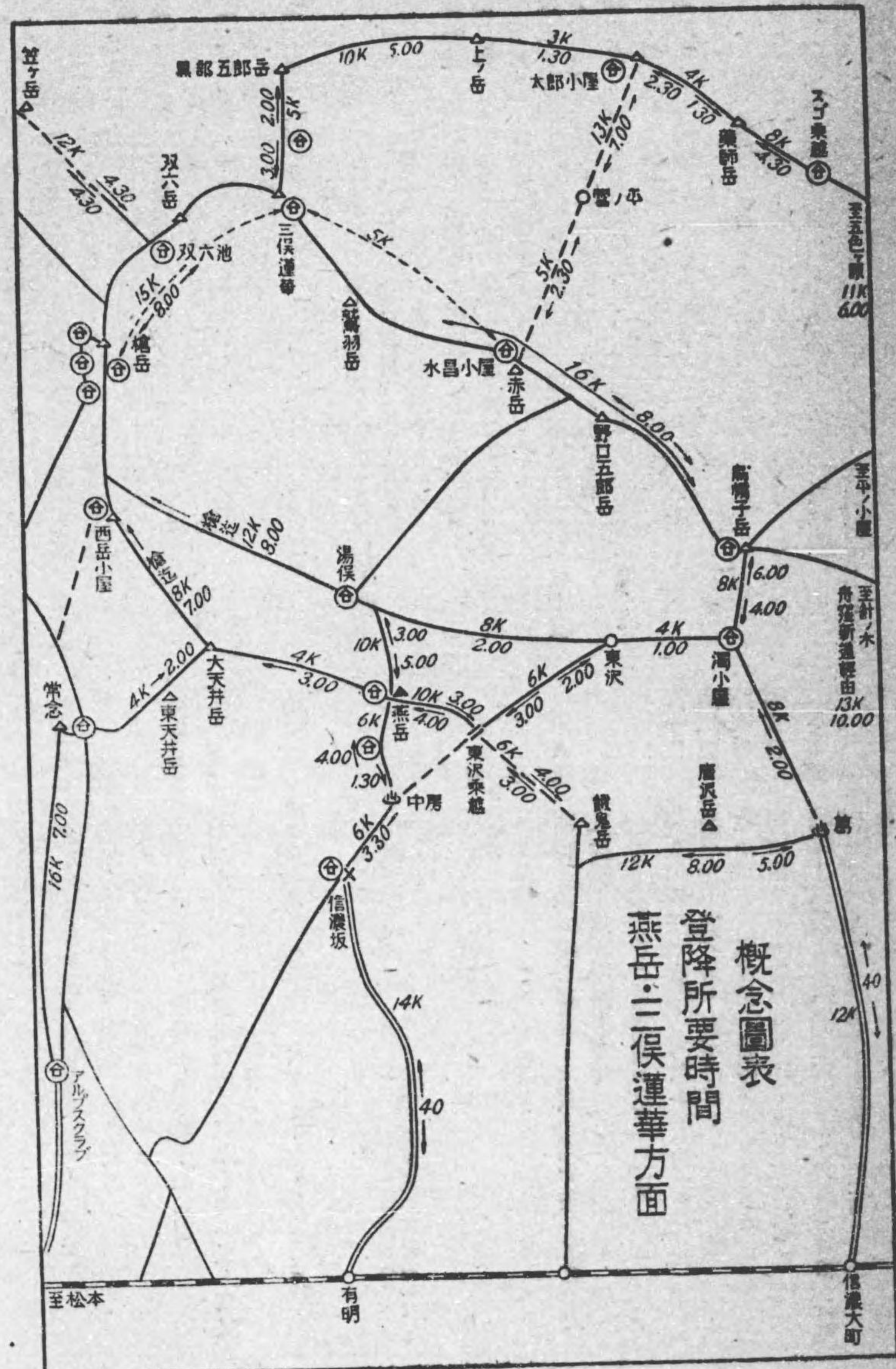
第二日 白馬頂上―清水岳―祖母谷温泉―鐘釣旅館(泊)

或は 中春山

第三日 鐘釣旅館―宇奈月温泉―三日市驛

〔註〕中春山尾根ルートには道路悪しく急坂且つ迷ひ易い所がある。しかし距離が短かく、白馬頂上を早朝出発すればその日に宇奈月温泉へ出ることも出来る。日電軌道は小屋まで延長してゐるから便乗するには、平又か猿飛からが便利である、小屋平終發午後三時二〇分。宇奈月着午後四時五〇分。





**E案 白馬・蓮華温泉** 所要日数 三日 乗物宿泊料概算約二圓

- 第一日 四ツ谷↓白馬頂上小屋(泊) (前記A案による)
- 第二日 白馬頂上小屋:白馬大池:蓮華温泉(泊)
- 第三日 蓮華温泉:平岩||小瀧(大糸北線)H||糸魚川

**F案 白馬岳から後立山連峰縦走**

- 所要日数 六日乃至六日位 乗物宿泊料概算一八圓乃至三圓
- 第一日 四ツ谷↓白馬頂上小屋(泊) (前記A案による)
  - 第二日 白馬頂上:杓子岳:白馬鍾ヶ岳:不歸岳:唐松岳:唐松小屋(泊)
  - 第三日 唐松小屋:大黒岳:五龍岳:八峯キレット小屋(泊)
  - 第四日 八峯キレット小屋:鹿島槍ヶ岳:冷池小屋:爺岳:種池村管小屋(泊)
  - 第五日 種池小屋:岩小屋澤岳:新越乗越:鳴澤岳:赤澤岳:ネバリ岳:針ノ木岳:針木峠小屋(泊)
  - 第六日 針ノ木峠小屋:大澤小屋:大出||信濃大町驛H||松本

**常念登山口**

案内人詰所 大糸南線豊科駅前  
柏矢町駅前

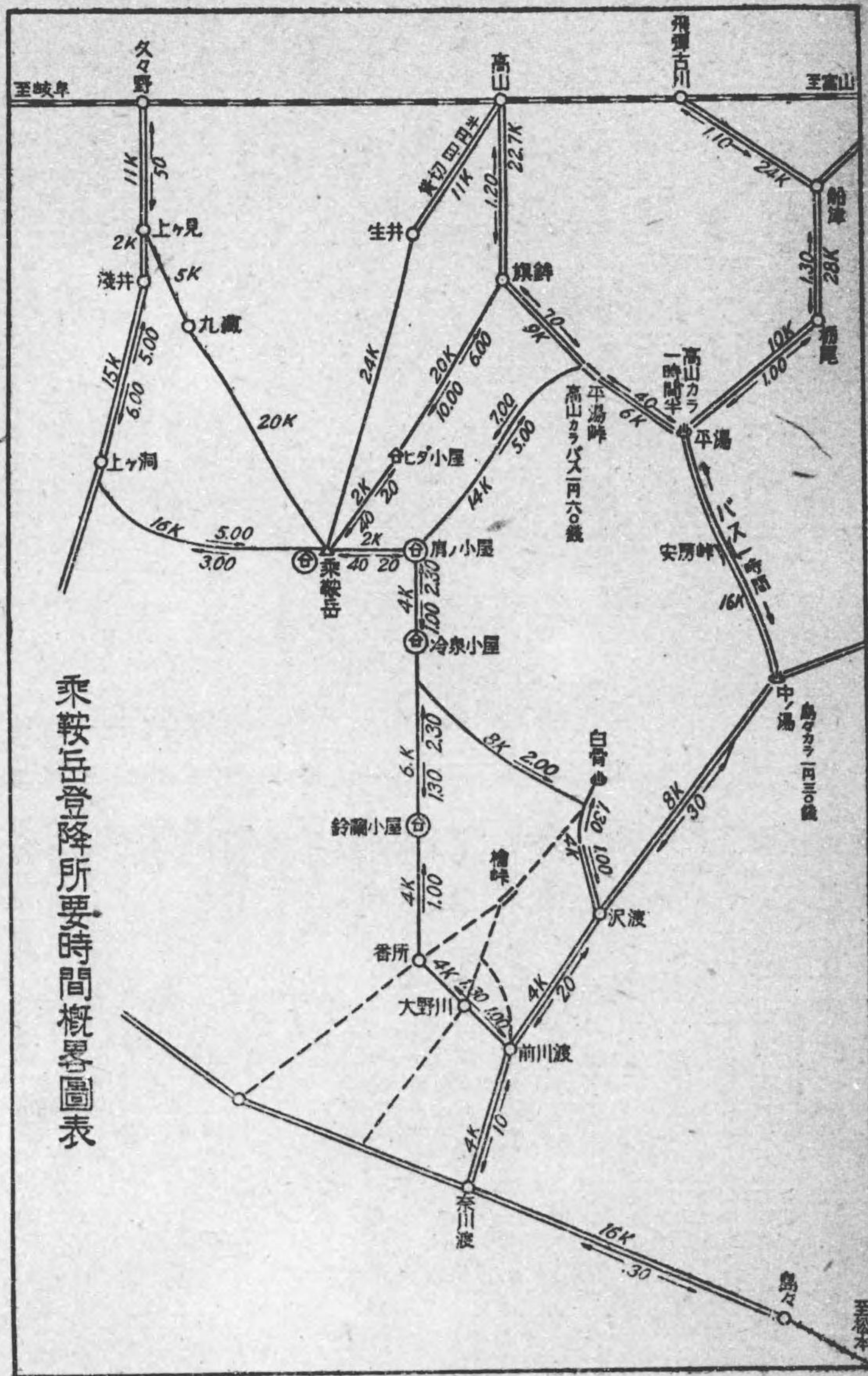
**有明登山口**

案内人詰所 大糸南線有明駅前

**A案 豊科-須砂渡-常念-大天井-槍-上高地**  
所要日数 三日 乗物宿泊料概算約三圓

- 至平小屋 至針木 至新道 13K 10.00
- 第一日 常念小屋(泊)
  - 第二日 常念小屋:大天井岳:西岳小舎:槍岳各小屋(泊)
  - 第三日 (槍岳各小屋):槍肩小屋:殺生小屋:大倉小屋:槍深ヒユツテ:一ノ俣山荘:徳澤園:明神池前:上高地(泊)又は||大正池前||中の湯下||鳥ヶ驛||松本↓
- B案 柏矢町-常念-大天井-燕-中房-有明-松本**  
所要日数 三日 乗物宿泊料概算 約三圓
- 松本-柏矢町 電車(省線)三〇分(一四軒二),二〇分  
柏矢町-鳥川橋間 自動車一五分  
松本-有明 電車(省線)二九分(二八軒四),三〇分  
有明-信濃坂 自動車四〇分(四軒)貸切あり
- C案 豊科-須砂渡-常念-一ノ俣-上高地**  
所要日数 二日 乗物宿泊料概算 約二圓
- 第一日 豊科||須砂渡||本澤:常念頂上:常念小屋(泊)
  - 第二日 常念小屋:一ノ俣山荘:徳澤園:明神池前:上高地||鳥ヶ驛||松本↓





乗鞍岳登降所要時間概略圖表

**大瀧小屋(泊)**  
 第一日 大瀧小屋：蝶ヶ岳：常念岳頂上：常念小屋  
 第二日 常念小屋：鳥川須 砂渡：豊科：松本↓(帰宅)  
 第三日 松本—三田口—鍋冠—大瀧—徳澤—上高地  
 所要日数 二日 乗物宿泊料概算 約二〇圓

**島々登山口**  
 案内人詰所 南安曇郡安曇村役場内  
 松本—島々 電車三四分(二五軒七) 四四鐘  
 島々—鳥々宿 バス一〇分(二軒) 一〇鐘  
 中ノ湯 バス 一〇分(三軒) 一〇鐘  
 上高地(河原橋) バス二時間半(三四軒) 一四半  
 松本—中ノ湯 三時間半 バス二時間  
 中ノ湯—平湯 バス一〇分(一軒) 一時間 六四

**A案 松本—上高地—大天井—燕中房—有明**  
 所要日数 四日(或は三日) 乗物宿泊料概算 約六圓

**第一日** 松本—鳥々(中ノ湯)→上高地(又は鳥々)：徳本峠：上高地(泊) 此の一日ノ俣若くは槍澤まで行けば三日行程に短縮することが出来る。

**第二日** 上高地：明神池前：徳澤園：一ノ俣山荘：槍澤ヒュツテ：大槍小屋：殺生小屋：肩ノ小屋：槍岳頂上：肩ノ小屋(泊)(又は槍岳各小屋)

**第三日** (槍岳各小屋)：西岳小屋：大天井岳：燕山荘：燕

岳(往復四〇分)(泊) 又は：中房温泉泊り  
 第四日 燕山荘又は中房温泉：信濃坂：有明驛：松本↓  
**B案 松本—鳥々—徳本峠(又は中ノ湯)→上高地—一ノ俣—常念—大天井—燕—中房—有明**  
 所要日数 四日 乗物宿泊料概算 約六圓

**第一日** 松本—鳥々—鳥々宿：徳本峠：明神池前：上高地(泊)  
 第二日 上高地：明神池前：徳澤園：一ノ俣山荘：常念小屋：常念岳頂上(往復一時間半)：常念小屋(泊)  
 第三日 常念小屋：大天井：燕山荘：中房温泉  
 第四日 中房温泉：信濃坂：有明驛：松本↓(帰宅)  
**C案 上高地—鍋冠—上高地**  
 上高地：鍋冠峠(小屋)：焼岳：上高地(又は中ノ湯)  
**D案 上高地—穂高縦走—上高地**  
 【注意】必ず案内人を要す

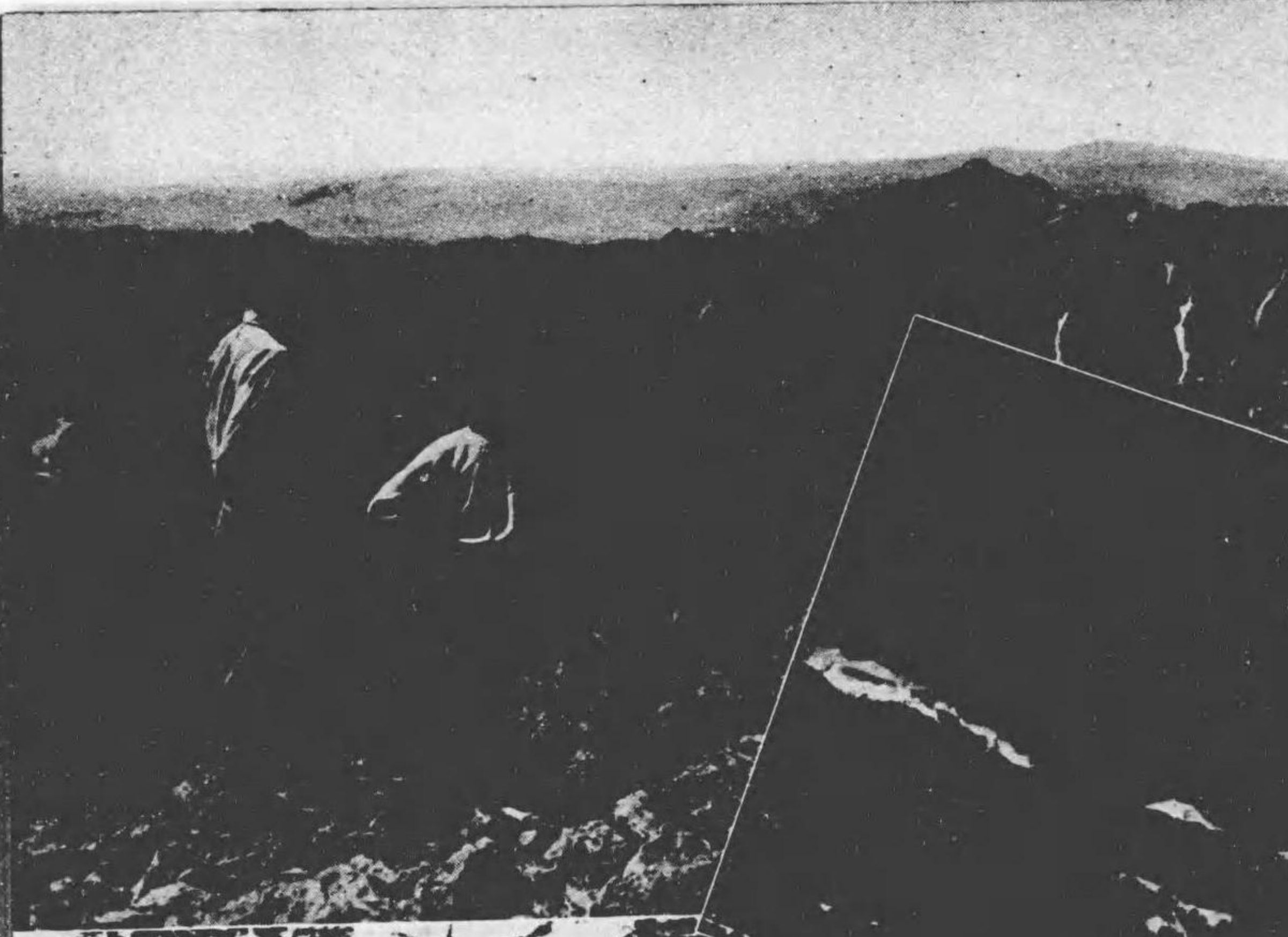
**第一日** 上高地：前穂高岳：奥穂高岳：穂高小屋(泊)  
**第二日** 穂高小屋：潤澤岳：北穂高岳：南岳：槍岳(泊)  
**第三日** (槍岳各小屋)：殺生小屋：大槍小屋：槍澤ヒュツテ：一ノ俣山荘：徳澤園：明神池前：上高地(之を逆のコースを探り槍岳から穂高縦走をして上高地へ下れば健脚者は一日で縦走することも出来る)

乗鞍岳

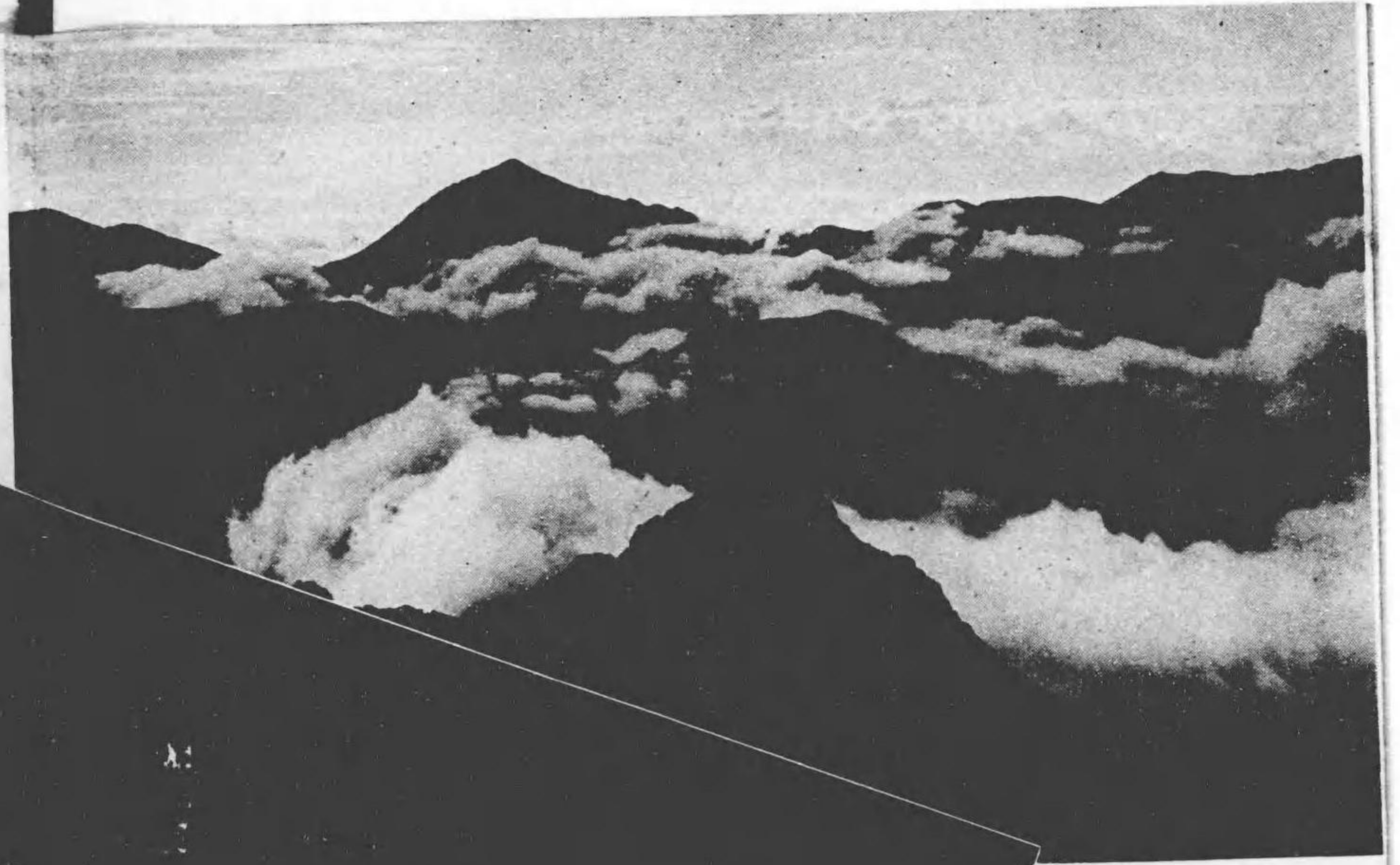
案内人詰所 南安曇郡安曇村役場内  
 大野川 大野川  
 白竹温泉 白竹温泉



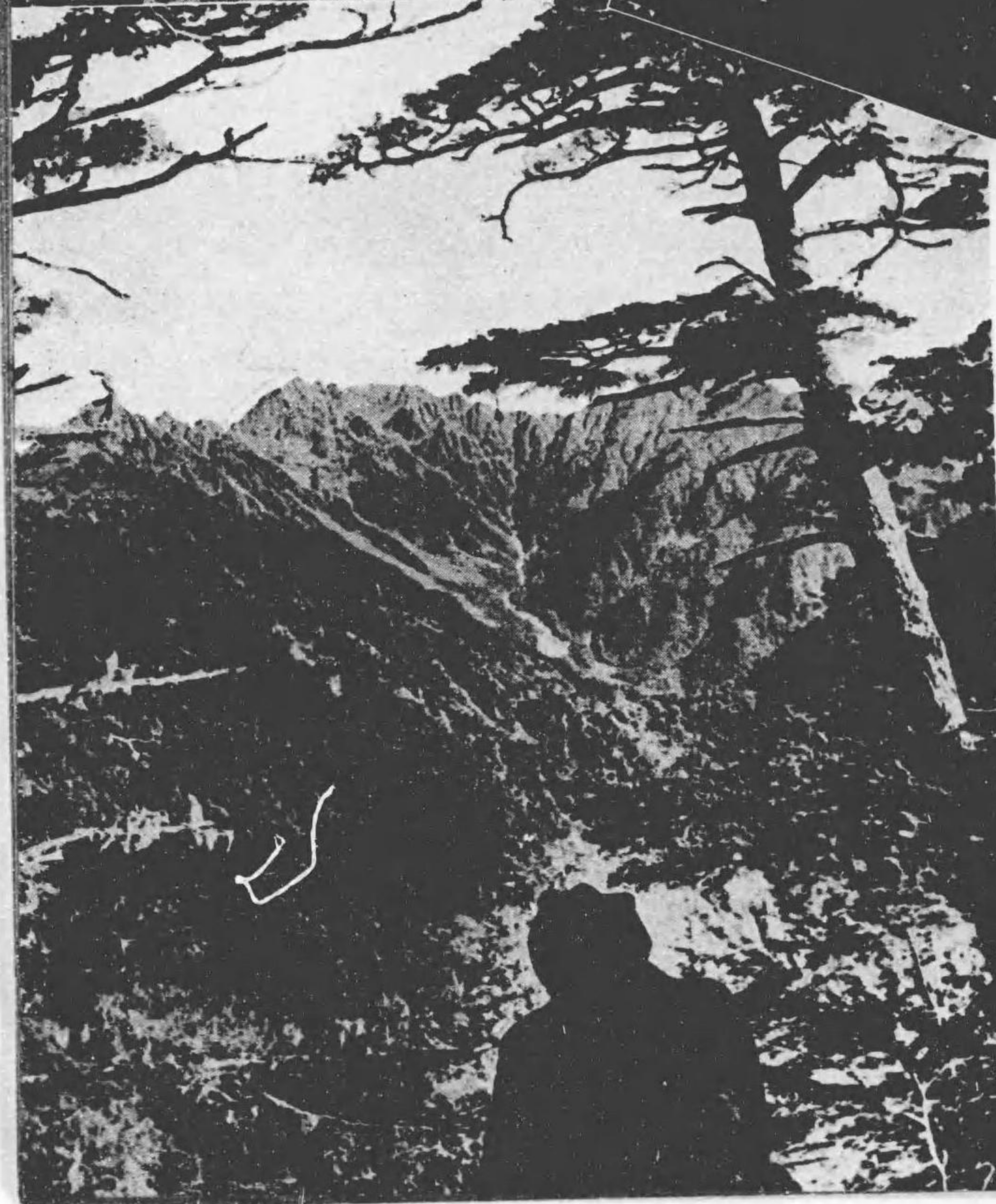




槍岳の雲海  
笠  
岳



望遠スプリアのりよ山高



安房峠より穂高を望む

上 真 岳 焼









笠ノ小屋	双六小屋	穂高温泉	平湯温泉	針ノ木・後立山方面	大澤小屋	針ノ木小屋	冷池小屋	八峯キレット小屋	唐松小屋	白馬・黒部方面	白馬山荘	二馬小屋	白馬小屋	大池小屋	蓮華温泉	清水小屋	黒母谷温泉	
七月一日〜八月末日	七月一日〜八月末日	年	年	七月一日〜八月末日	七月一日〜八月末日	七月一日〜八月末日	七月一日〜八月末日	七月一日〜八月末日	七月一日〜八月末日	年	七月一日〜九月末日	七月一日〜八月末日	七月一日〜八月末日	七月一日〜八月末日	七月一日〜八月末日	七月一日〜八月末日	七月一日〜九月末日	六月一日〜九月末日
二・三〇	三・三〇	二・二〇	二・〇〇以上	二・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上	四・〇〇以上
四〇〇	四〇〇	三五〇	三〇〇	三〇〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇

鐘御前	立山・黒部方面	立山	五色橋	追分	平ノ小	池ノ平	スゴ乗越	太郎平	黒部五郎	弘法	立山	稱名ホタル	大日	大馬場	坊主	縣管	劍管	字奈月	
七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	七月一日〜九月五日	六月一日〜九月五日	六月一日〜九月五日
三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上	三・〇〇以上
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇

**スプルア南**

北アルプス及中部アルプスと共に中部日本に於ける脊梁をなす深山地帯で、所謂赤石山系の北半を云ふものである。その境域は駿河・甲斐・信濃の三國に跨り、之を赤石を盟主とする赤石山脈、北嶺を盟主とする白嶺山脈、駒ヶ岳・鳳凰山を盟主とする甲斐駒山脈の三部に大別し、大井川・天龍川・富士川などの大河は大體この山脈内に發源してゐる。南北の長さ凡そ一五〇軒、東西の幅は廣く約八〇軒に及ぶが、北上するに従つて次第に狭くなり、機状をなして終に北方湖沼附近に至つて盡きてゐる。最高點はその脊梁をなす白嶺北岳(所謂白嶺山脈に屬し海拔三、三〇〇米)で、之を中心として南北に駒ヶ岳・仙丈ヶ岳・鳳凰山・鷲ヶ岳・荒川岳・赤石岳等一萬尺を凌駕する秀峯連亘し、高度の點に於ては北アルプスの追隨を許さぬ偉觀を呈すが、その兩側に聳立つる前山に遮られて、平地からその全容を窺ふことが出来ぬのが遺憾である。また稍南に偏する圓嶺上北アルプスに比し雲漢の發達少く、その美觀は劣つてゐるが、しかし千古斧鑿の入らない原生林の美と溪谷の美は南アルプスの持つ大きな特色である。

赤石山系は中部日本の外帯をなす山脈で、南は紀伊山脈と呼吸し、その東方は關東山脈と對峙をなしてゐる。三河の渥美半島に起り東北に向つて漸次高さを増し、一座天龍川に遮断され、北に轉向して天龍川・富士川の間に連亘し、赤石岳(三、三〇〇米)・荒川岳(三、二〇〇米)・鷲ヶ岳(三、〇〇〇米)・仙丈ヶ岳(三、〇〇〇米)等の高山大岳を起し、東側に大井川、西側に天龍川源流の谷を抱いてゐる。白嶺山脈はいはゆる白嶺三山といはれる北岳(三、二〇〇米)・間ノ岳(三、二〇〇米)・鷲ヶ岳(三、〇〇〇米)を主峯としてその北西に聳ゆる銅岳(二、六〇〇米)と、所謂鳳凰山塊の鳳音岳(二、八〇〇米)・藥師岳(二、七〇〇米)・地藏岳(二、七〇〇米)等の連峯からなつてゐる。

**鳳凰山**

〔地圖〕 五萬分一 韮崎・市野瀬・大河原・白根山近傍圖  
山梨縣北巨摩・中巨摩兩郡に跨り、甲斐駒ヶ岳の東南、

甲府盆地の西に聳ゆる花崗岩山の高峯で、日本南アルプスの北端をなす鳳凰山塊の盟主である。山勢雄渾・險峻・最高峯を觀音岳と稱し、その頂上には花崗岩の岩塊石柱状をなして屹立すること約六〇米、北アルプスの槍ヶ岳の峯頭と共に頗る偉觀を呈してゐる。古來子授地蔵として信仰があり幾多の傳説に富んでゐる。鳳凰山の西南には本州第二の高峯である白嶺三山の北岳聳え、その間に富士川の上流なる野呂川の谿を抱いてゐる。北は八ヶ岳と相對してその裾合谷に甲府盆地を貫く釜無川が走つてゐる。甲府を出た列車が西北へ八ヶ岳の裾野を走る間、鳳凰山・駒ヶ岳の二峯は常に車窓左側に高く仰がれ、山頂の花崗岩塊が黒木立の山腹の上に白い美しい岩肌を見せてゐる。

登山は中央線甲府驛・韮崎驛・穴山驛・日野春驛等に下車、青木鑛泉又は御座石鑛泉を経て登るのであるが何れも往復とも云ふべき地位にあり、白鳳會や案内人組合がある。最高峯の觀音岳頂上は眺望雄大である。東北に秩父連峯を望み、東南脚下に甲府盆地を俯瞰し、また富士の秀峯を近くに仰ぎ、南は脚下に深い野呂川の谷を隔て、白嶺北岳が最も近くに莊麗な姿を見せて居る。北岳の最も莊麗な姿は鳳凰山から望むに如くものはない。その左は圓みのある間ノ岳が大きく聳え、左の農鳥岳を連ねて深山の王者のやうに横がつてゐる。また遠く鹽見岳・赤石岳などへ續く南アルプスの連山も一目に見渡される。西には甲斐駒ヶ岳が黒い早川尾根・アサヨ峯などを南に従へて間近に白い峯頭





ける山々と、仙丈岳から起伏した赤石山脈の遠く鹿々良森にいたる豪快な尾根を斜面で窺ふやうに、その各々抱く山姿を見盡せるのは、此の鹽見岳の大きな特色である。山名のおこりは、頂上から太平洋を望むことが出来「汐が見える」と云ふ處から出たと云ふ。

登山には伊那谷方面から登るのが良く、それには伊那大鳥居から北條峠・三伏峠を経て登るものと、伊那町から高遠・市ノ瀬を経て登るものがある。

山頂附近は概ね岩石地帯で狭く、山腹には高山植物が豊富である。山頂からは南アルプスの高峯連山が眺められ、特に白峯三山や赤石岳の眺望が勝れてゐる。

### 仙丈嶽 (海拔 2,033米)

〔地圖〕 五萬分一 市野瀬・高遠・並崎・白根山近傍圖

南アルプス連峯の比較的西北、甲斐駒ヶ岳の西南に聳ゆる高峯で、東は鳳凰山に對し、東南には南アルプスの重嶺白峯三山が近くに聳えてゐる。山頂は割合に廣く、また高山植物が豊富であり、東北の敷川と東南の小仙丈に面して開く標式的大カールは此の山の特徴である。

登山は甲斐駒ヶ岳と殆んど同一コースである。

山頂からは南に白峯三山及鹽見岳・赤石岳など南アルプスの高山が一眸に集り、東北に駒ヶ岳が最も近く花崗岩砂の美しい峯が望まれる。また東には鳳凰山、西には三峯川の谷を俯瞰し、遠く伊那谷を隔て、木曾駒ヶ岳の連峯から御岳・北アルプスが望まれる。

### 南アルプス登山日程案

〔註〕 乗物概算は省線及社線の最寄下車駅から歸りの乗車運送の費用(但案内人及登山用具の費用を除く)を概算したものである。

Ⅱは自動車(主としてバス)……は徒歩

#### 甲斐駒ヶ岳

並崎—臺ヶ原 バス一時間(一六軒)、五〇錢(登山期中各列車に接続)  
 日野春野—牧ノ原(二軒、徒歩三〇分)  
 牧ノ原—臺ヶ原 バス二〇分(四軒八、二〇錢(並崎發のもの))  
 穴山驛—臺ヶ原(二軒、徒歩四〇分)  
 穴山驛—臺ヶ原(バス並崎方面からの)三〇分、三五錢  
 伊那町入舟驛—高遠町(バス三三分(八軒)、三〇錢(三〇分毎))、  
 高遠町—黒河内(バス三三分(一〇軒)、四〇錢(六回)、貸切黒川迄ゆく)

A案 並崎—臺ヶ原—七丈—駒ヶ岳 所要日数二日 乗物宿泊料概算約八圓

第一日 並崎—臺ヶ原—竹宇前宮—笹ノ平—黒戸前屏風—屏風小屋—七丈小屋(泊)  
 第二日 七丈小屋—頂上—下山

B案 並崎—尾白溪谷通行 所要日数二日 乗物宿泊料概算約八圓

第一日 並崎—臺ヶ原—竹宇前宮—旭瀧—神蛇瀧—不動瀧—瓢箪瀧—夫婦瀧—梯子瀧  
 第二日 北御室小屋—鳳凰小屋—地藏岳—觀音岳—藥師岳—舊青木湯跡—中道—青木鑛泉—並崎  
 又は第二日 藥師岳—一時間—南御室小屋—杖立峠—夜叉神峠—二時間—若倉(泊)  
 第三日 若倉—二時間—有野—甲府驛

第一日 遠見瀧遠見場所—噴水瀧—獅子岩—本谷落合(ウナリ瀧)—千丈瀧—屏風小屋—七丈小屋(泊)  
 第二日 七丈小屋—頂上—下山

C案 並崎—柳澤—七丈—頂上往復 所要日数二日 乗物宿泊料概算約八圓

第一日 並崎—牧ノ原—柳澤—横手宮前—黒戸前屏風—屏風小屋—七丈小屋(泊)  
 第二日 七丈小屋—頂上—下山

D案 伊那町—高遠—頂上往復 所要日数二日 乗物宿泊料概算約八圓

第一日 辰野—伊那町入舟—黒河内—戸臺—赤河原—六合目小屋(泊)  
 第二日 六合目小屋—頂上—下山

### 鳳凰山

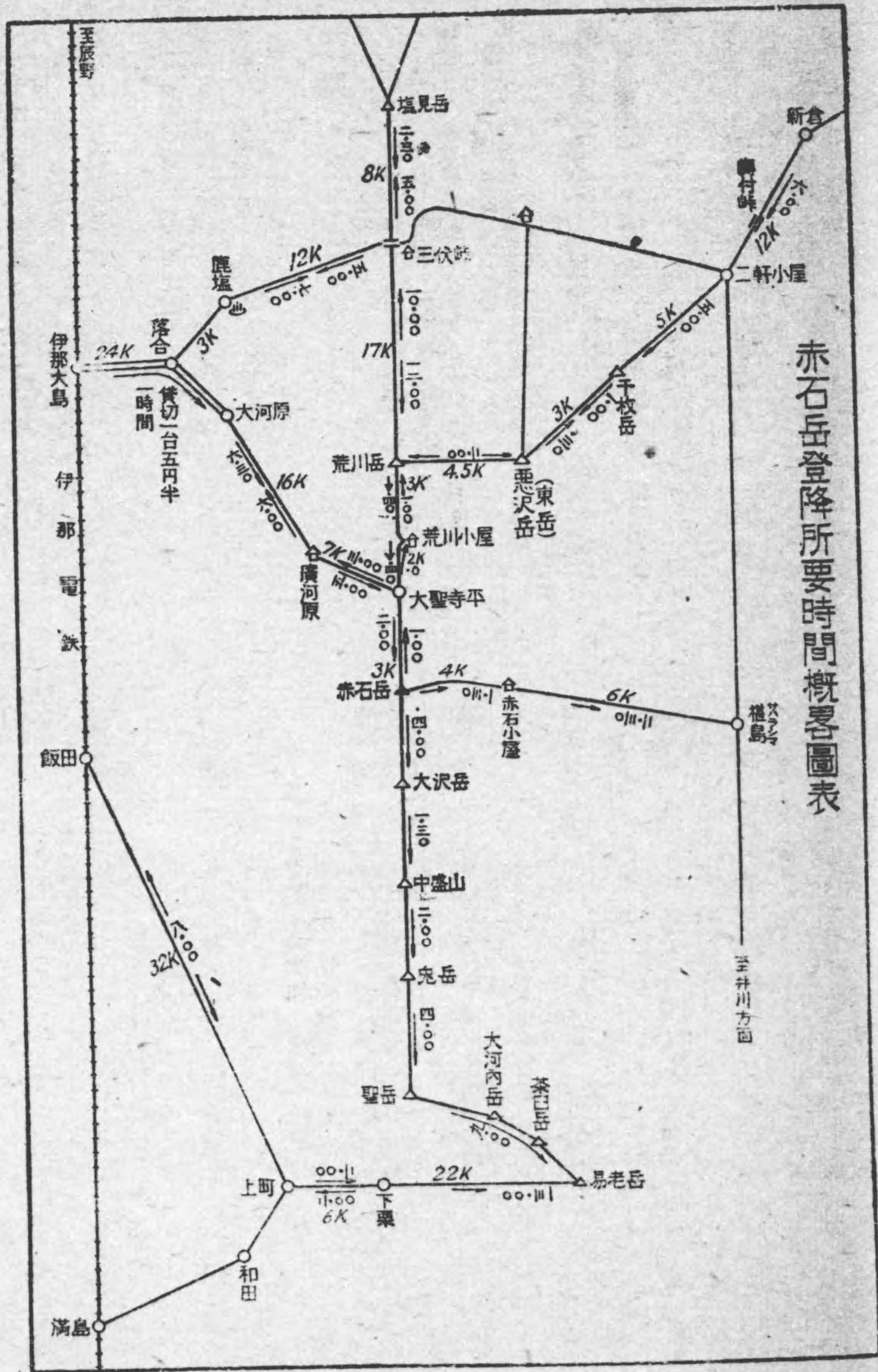
A案 並崎—青木—地藏岳—觀音岳—藥師岳 所要日数二—三日 乗物宿泊料概算約八圓概算

第一日 並崎驛—祖母石村北端—青木發電所—鳥居峠—青木鑛泉—南精進瀧—五色瀧—北御室小屋(泊)

C案 並崎—牧ノ原—山高—燕頭山 所要日数二—三日 乗物宿泊料概算約八圓

第一日 並崎驛—牧ノ原—山高—六本木—石空川魚止瀧—燕頭山—富士見臺—鳳凰小屋(泊) 第二日 (A案はBに依る)





鋸 岳

**D案 甲府—有野—青倉—杖立峠—諏訪**  
 所要日数 二日 乗物宿泊料概算 約八圓  
**第一日** 甲府 徒歩三時間半 切戸倉 二時間 夜叉神峠 二時間 杖立峠 三時間 南御室小屋(泊)  
**第二日** 南御室小屋 二時間 薬師岳 一時間 観音岳 四十分 地藏岳 四十分 北御室小屋 二十分 五色瀧 一時間 南精進瀧 一時間半 青木鏡泉 二時間 鳥居峠 一時間半 青木發電所 四十分 祖母岩 一十分 韭崎  
**E案 日野春—牧ノ原—青木** 所要日数 二日 乗物宿泊料概算 約八圓  
**第一日** 日野春 徒歩三時間 牧ノ原 新奥 青木鏡泉(以下A案其他に依る)  
**第二日** 辰野 伊那町入舟 高遠 黒河内 戸蓋 赤河原 駒ヶ岳 六合目(泊)  
**第二日** 六合目小屋 一時間 三ツ頭 一時間 熊の穴 乗越 一時間 第二高點 二時間 第一高點 一時間 大岩下(岩小屋) 一時間 角兵衛澤尻 一時間 戸蓋 黒河内 伊那町 辰野 ↓

白峯三山

**A案 韭崎—五葉尾根—農鳥—西山温泉—甲府**  
 所要日数 五日 乗物宿泊料概算 約一八圓  
**第一日** 韭崎 一時間 又或 甲府 一時間 源村 有野 二時間 (又は甲府から貸切) 青倉 三時間 夜叉神峠 三時間 大屋頭山 一時間 五葉尾根小屋(泊)  
**第二日** 五葉尾根小屋 八時間 カスケ澤 一時間 野呂川河原 一時間 廣河原小屋 三時間 白峯御池小屋(泊)  
**第三日** 御池小屋 二時間 小太郎尾根 一時間 北岳頂上 二時間 間ノ岳 一時間 農鳥小屋(泊)  
**第四日** 農鳥小屋 一時間 西農鳥岳 一時間 農鳥岳 二時間 大門澤降口 一時間 大門澤尻 一時間 大門澤小屋 七時間 奈良田 一時間 西山温泉(泊)  
**第五日** 西山温泉 七時間 足馴峠 一時間 出頃茶屋 七時間 鰻澤 一時間 甲府  
 又は五日 西山温泉 一時間 新倉 早川橋 甲府 (又は早川橋 一時間 下山上津 渡船 下山波高島 甲府又は富士)



B案 伊那町—高遠—仙丈岳—北岳

所要日数 七日 乗物宿泊料概算 約十圓

- 第一日 辰野至伊那町入舟—高遠—戸臺—北澤峠小屋(泊)
- 第二日 北澤峠—仙丈岳頂上—兩股小屋(泊)
- 第三日 兩股小屋—北岳頂上—間ノ岳—農島小屋(泊)
- 第四日 農島小屋—西山温泉(以下A案と同じ)

鹽見岳

A案 大島—鹿鹽—三伏峠—鹽見岳

所要日数 二日又は三日 乗物宿泊料概算 約十圓

- 第一日 辰野驛—伊那大島驛—伊那大島驛—鹿鹽—三伏峠(泊)—大島
- 第二日 三伏峠—鹽見岳
- (参考) 三伏峠—小西俣水源野營地—荒川岳—荒川小屋(赤石岳)
- B案 伊那町—高遠—市ノ瀬—鹽見岳

所要日数 二日乃至三日 乗物宿泊料概算 約十圓

第一日 辰野驛至伊那町入舟驛—高遠町—市之瀬—小瀬

- 第一日 辰野驛至伊那町入舟驛—高遠町—市之瀬—小瀬
- 第二日 荒川渡材木小舎—小瀬戸ノ湯—荒川渡—鹽見岳—下山

赤石岳

A案 伊那町—大河原—荒川—赤石

所要日数 四日 乗物宿泊料概算 約一三圓

- 第一日 伊那大島驛—大河原—小澁湯
- 第二日 大河原—大聖寺平—赤石岳引返し
- 第三日 荒川小屋—荒川岳引返し—下山—大河原(泊)
- (参考) 第三日目を荒川小屋—荒川岳—三伏峠(泊)
- 第四日 三伏峠—鹿鹽—伊那大島驛
- B案 甲府—早川橋—陣付峠—東岳—赤石岳

所要日数 四日 乗物宿泊料概算 約二〇圓

南アルプス連峯

登山案内人・山小屋・其他調

伊那谷方面

A 高遠町方面

東駒ヶ岳(甲斐駒)・銅岳・仙丈岳・北澤峠・釜無連峯・白峯三山・鳳凰山・鹽見岳方面へは伊那電車入舟驛に下車、高遠町を経て戸臺又は市ノ瀬から入るのが順路である。

辰野—伊那入舟 電車三〇分、五〇銭  
 伊那町—高遠 バス三〇分、三〇銭(三〇分毎)  
 高遠—黒河内(戸臺口) バス三二分(六回)四〇銭  
 〃—市ノ瀬 五〇分(六回)六〇銭  
 〃—市ノ瀬 五〇分(六回)六〇銭

貸切伊那町から 四圓五〇銭  
 〃 十二圓  
 〃 十五圓

山岳會

上伊那郡赤穂村伊那電鐵支社内 上下伊那聯合山岳會  
 上伊那郡伊那町役場内 伊那町山岳會  
 〃 高遠町 高遠商工會山岳部

旅館・山小屋

(高遠町) 竹松屋、松田屋  
 (伊那町) 箕輪屋、中屋、牧輪屋、あいや、扇子屋、  
 入舟館(泊二食付三圓以上 中食五〇銭—一圓)

市ノ瀬

鹽見岳・仙丈岳方面登山口  
 市ノ瀬 鹽見岳・仙丈岳方面登山口  
 伊那里山岳會

第一日 甲府—早川橋(又は甲府驛)—波高島驛

一軒、富士川渡船 一時間五分、六二銭  
 〃 早川軌道 〇分、一〇銭  
 下山村上澤 〇分、一〇銭  
 早川橋 〇分、一〇銭  
 新倉(泊) 〇分、一〇銭

第二日 新倉—廣河原—轉付峠頂上—二軒小屋

一軒、千枚小屋(泊) 〇分、一〇銭  
 第三日 千枚小屋—惡澤岳(東岳)—荒川岳—荒川小屋—小赤石丘—赤石岳—赤石小屋—梅島(泊)

第四日 梅島—二軒小屋—轉付峠—新倉—早川橋—甲府

C案 金谷—千頭—梅地—田代—樺島—赤石岳  
 第一日 金谷驛—大井川驛—東海道線—又は鳥田驛—新金

谷驛—千頭驛—梅地(泊)

第二日 梅地—井川—田代(途中に接岨峽の勝がある)  
 第三日 田代—高瀬島—途中に大井長瀨の景あり

第四日 樺島—中腹小舎—赤石岳—大河原

案内人料一日 三圓五〇銭(食料車馬宿泊料其他客  
事但シ一ヶ所ニ滞在ノ場合ハ二圓七〇銭)

◎旅館・山小屋  
旅館 橋本屋、みどり屋 一泊二圓以上  
仙丈岳頂上小屋(番人滞在七月-九月) 一人一泊自炊一圓  
一泊二食付(寝具なし)二圓半 收三〇人位  
小瀬戸の湯(冬季も宿泊可) 一泊八〇銭以上

戸 臺 口 東駒・駒・仙丈・鶴與・鳳凰三山・  
白峯三山・北澤峠への登山口

◎案内人組合  
上伊那郡美和村字戸臺 竹澤長衛方  
美和案内人組合事務所  
案内人料一日 三圓八〇銭(前と同じ)

◎宿舎・山小屋

戸臺口は物資の販賣店なきも小松傳瀧・竹澤長衛氏宅にて白米、味噌等を分譲して呉れる。又宿泊することも出来る。  
駒ヶ岳頂上小屋(六合目) 番人滞在七月-九月中旬 宿  
泊自炊五〇銭  
北澤縣設小屋 番人滞在七月-九月  
北澤ヒュツテ(長衛小屋) 番人滞在七月-十一月  
一泊二圓-二圓五〇銭 自炊一泊八〇銭(寝具五〇銭) 辨當三〇銭以上  
東駒ヶ岳六合目小舎泊料 一泊六〇銭(寝具なし)

B 伊那大島嶽方面

南アルプスの主峰赤石岳を中心として荒川三山・三伏岳・聖岳・大澤岳・鬼岳・先岳・易老岳・加々森山等への登山下車場で、大河原又は

鹿野を經て登るのが最良である。  
辰野-伊那大島 電車一時間三五分、賃一圓四八錢(税二錢)  
大島嶽-大島嶽(北條) バス七〇銭  
大島嶽-大河原 又は鹿野、賃切一圓九圓、所要一時間二〇分

大河原 口 赤石・聖・荒川・東・鹽見岳登山口

◎山岳會  
下伊那郡大鹿村役場内 大鹿山岳會(電話鹿野一番)

上伊那郡赤穂村伊那電鐵會社内 上下伊那聯合山岳會

◎案内人  
下伊那郡大鹿村 大鹿登山案内人組合  
案内人料一日 三圓三〇銭(冬山五割増)(前と同じ)

◎旅館

丸川、赤嶺館、小椋、白川屋  
一泊辨當付二圓七〇銭以上 中食五〇銭以上

鹿 鹽 口 鹽川廻行鹽見岳・赤石方面登山口

◎山岳會 大鹿山岳會(大鹿村役場内)

◎案内人  
下伊那郡大鹿村鹿鹽 大鹿登山案内人組合  
案内人料一日三圓三〇銭(冬山五割増)(前と同じ)

◎旅館・山小屋  
山鹽館、鹽湯館(兩館共鹽水浴場あり)、近江屋旅館

一泊二圓七〇銭以上 中食五〇銭以上 辨當二五銭  
荒川小屋、三伏峠小屋、廣河原小屋(何れも七月-九月中旬  
番人有) 自炊一日八五銭(寝具なし)

中央線方面其他

山岳會・登山案内組合

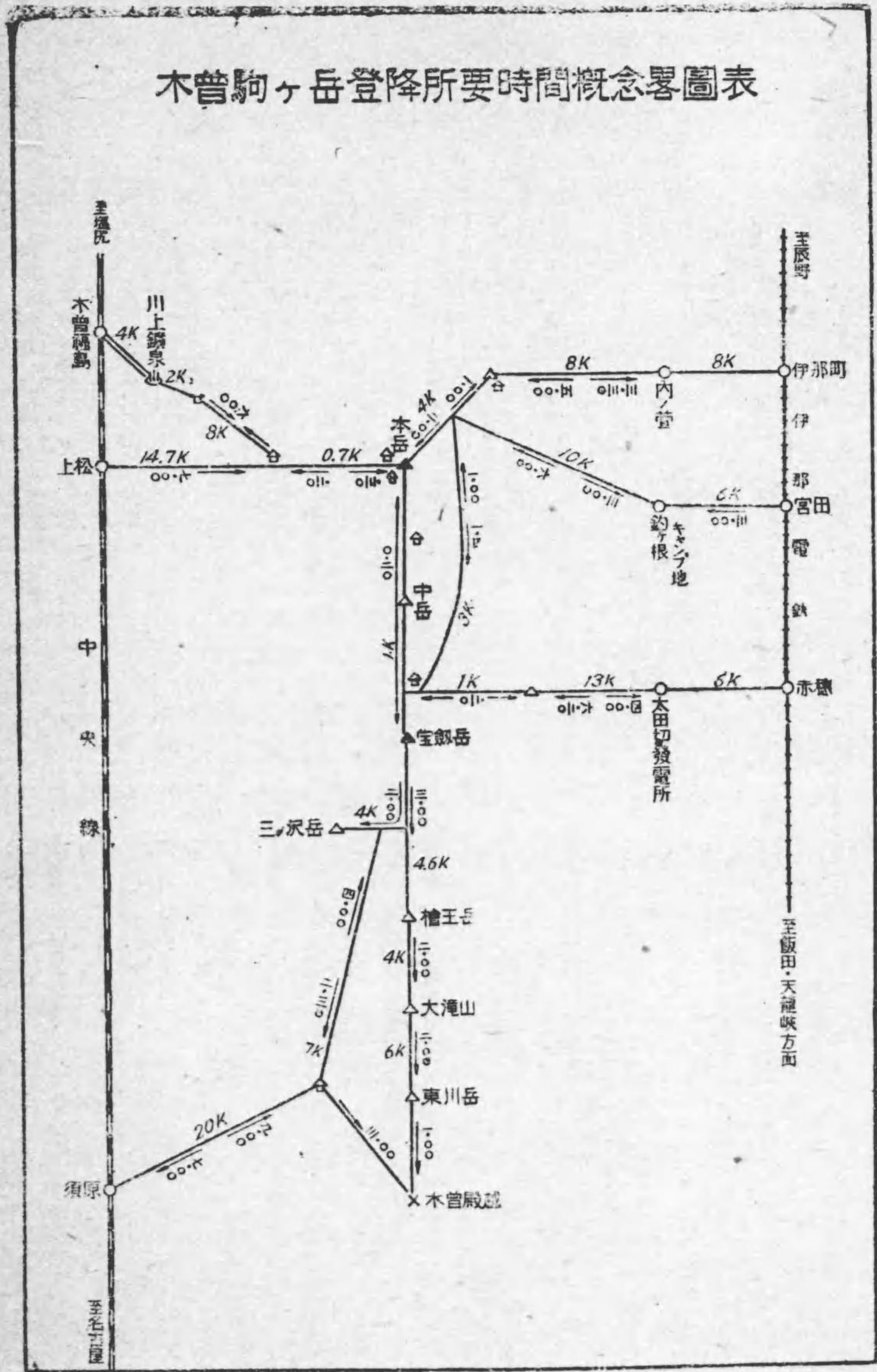
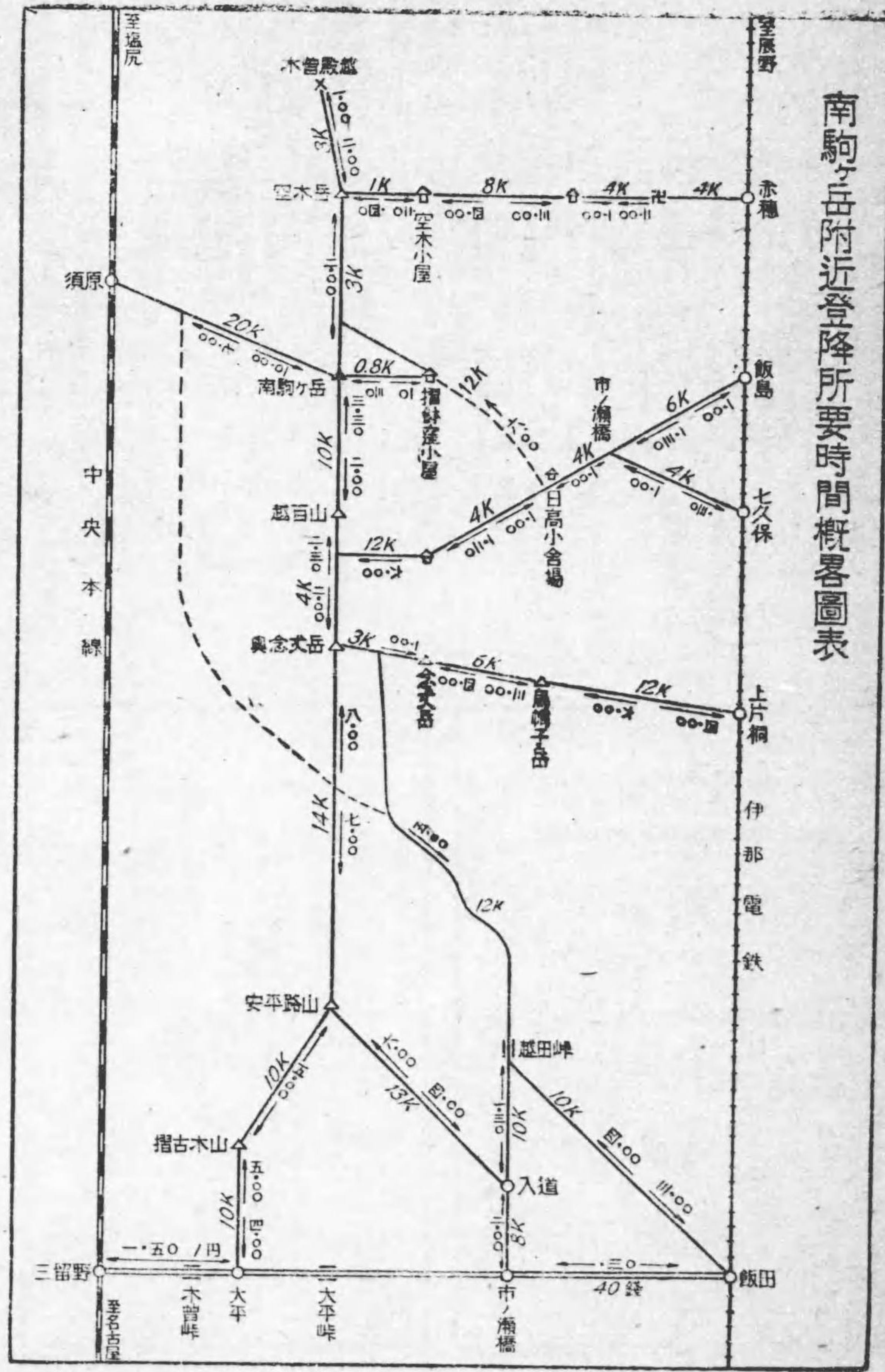
登山口	所在地	名稱	電話
山梨縣北巨摩郡	白鳳會	六〇	
山梨縣北巨摩郡	強力案内組合	六〇	
山梨縣北巨摩郡	白樺會	六一	
山梨縣北巨摩郡	雄鳳會	六一	
山梨縣北巨摩郡	日野春山岳會	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	石佛會	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	山嶺會	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	鳳凰山會	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	武川村	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	駒成村	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	菅原村	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	同	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	旭山村	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	神山村	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	中巨摩郡	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	平林村	日野春 三二	
山梨縣北巨摩郡	野々瀬村	日野春 三二	

山小屋・旅館

山名	軒數及 收容人員	番人 有無	料 金	物資 有無
山梨縣中巨摩區芦安村	強力案内組合	有		
山梨縣西山村	觀島村	有		
山梨縣赤心山岳會	赤心山岳會	有		
山梨縣白峰會	白峰會	有		
山梨縣北巨摩區穗坂村	山岳會	有		
山梨縣安倍郡井川村田代	案内人組合	有		
山梨縣上川根村千頭口	案内人組合	有		

山名	軒數及 收容人員	番人 有無	料 金	物資 有無
山梨縣北巨摩區早川根	早川根 各三人	有		
山梨縣北巨摩區早川根	早川根 各三人	有		
山梨縣北巨摩區早川根	早川根 各三人	有		
山梨縣北巨摩區早川根	早川根 各三人	有		
山梨縣北巨摩區早川根	早川根 各三人	有		
山梨縣北巨摩區早川根	早川根 各三人	有		
山梨縣北巨摩區早川根	早川根 各三人	有		
山梨縣北巨摩區早川根	早川根 各三人	有		
山梨縣北巨摩區早川根	早川根 各三人	有		
山梨縣北巨摩區早川根	早川根 各三人	有		







守る公德  
明るい旅路



終